

(一般質問)

質問日	令和6年3月11日(月)		質問方式	分割方式			
質問順位	7	会派名	市民クラブ	議席番号	11	氏名	花井 洋介
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 交通安全政策について	<p>本市は全国の市町村の中で2番目に、政令指定都市の中では最も広い面積と、広大な道路管理延長を有しており、車の保有は生活をする上で必須となっている。安全は何よりも優先すべき課題であり、市全体で取り組んでいく必要がある。また政令指定都市、人口10万人当たりの人身事故件数がワースト1であることがクローズアップされ、市民だけでなく市外からも心配する声が聞こえてくる状況である。交通事故を減らしていく取組を強化していく必要があることから、本市の交通安全政策について、以下伺う。</p> <p>(1) 第11次浜松市交通安全計画で掲げる、令和7年までに年間人身交通事故件数2500件以下、年間死者数12人以下について、非常に難しく高い目標と捉えているが、現状を伺う。</p> <p>(2) 政令指定都市、人口10万人当たりの人身事故件数が14年連続ワースト1となっているが、現状認識とワースト1脱却に向けての施策について伺う。</p> <p>(3) 交通事故削減施策の一つである交通事故AI分析について、令和5年9月よりオープンデータ化されたが、効果と期待される活用事例について伺う。また、市民や企業が活用し、その取組を広げていくことが必要だと考えるが、今後の取組について伺う。</p>						伏木土木部長
2 交通安全教育について	<p>本市では令和5年1年間で800件を超える自転車が絡む事故が発生しており、これまでも自転車通行帯の拡充など対策を講じているが、自転車事故状況では出会い頭事故が多いなど交通ルールの教育や、交通安全意識を向上させる取組が必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 自転車が絡む事故の半数近くが10代であり、小・中学校での交通安全教育が特に重要と捉えている。現状の取組と課題について伺う。</p> <p>(2) 自転車免許制度を導入し、効果を上げている自治体もあり、本市においても交通ルールや安全知識の習得、安全意識の向上を図る取組が必要と考える。自転車運転免許制度など、小・中学校における交通安全教育を強化させていく考えはないか伺う。</p>						奥家学校教育部長
3 スポーツ文化都市 浜松について	<p>本市は「第2期浜松市スポーツ推進計画」を策定し、年齢や性別、障がい等を問わず、市民一人一人がライフ</p>						杉田スポーツ振興担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>4 スポーツをするための施設について</p>	<p>スタイルの一部にスポーツを取り入れ、心身ともに健やかで豊かな生活を営むことができるまち「スポーツ文化都市 浜松」の実現に向け取り組んでいる。生活の豊かさや健康増進だけでなく、市民活力・地域経済の活性化等、幅広い効果も期待されており、特に将来を担う子供たちに対する取組が重要と考える。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 「スポーツ文化都市 浜松」の実現に向け「する」「みる」「ささえる」の3つの観点で取り組んでいるが、子供たちにおけるスポーツも多様化し、求めるスポーツの在り方も変わってきたと考える。そこで、子供たちへの取組と課題について伺う。</p> <p>(2) 子供たちへ、トップアスリートとの交流や教室、ゲーム観戦などを取り入れることで、子供たちの競技力やモチベーションの向上、夢を育む上で成果を上げていると捉えているが、更に強化していく考えはないか伺う。</p> <p>(3) 「第2期浜松市スポーツ推進計画」では、学校部活動サポート、地域スポーツ指導者育成など、部活動の地域移行に関連する施策も含まれている。地域移行に関しては、部活動以外の外部で活動する団体など、受け皿を複数用意し選択肢を広げていくことが必要と考えるが、スポーツ振興としてのスタンスを伺う。</p> <p>スポーツを「する」ための施設として、本市は多くの施設を有している。天竜川緑地グラウンドは、野球及びソフトボール利用のグラウンドが北、南合わせて12面、サッカー場は1面となっており、学童を中心に子供から大人まで多くの人がスポーツに携わることができる貴重な場所である。</p> <p>そこで、天竜川緑地グラウンドの環境について、以下伺う。</p> <p>(1) 野球場の内野を中心に土部分の水捌けが非常に悪く、練習や大会運営に支障を来しているとの相談を多く受ける。天竜川緑地グラウンドの水捌けについて改良していく考えはないか伺う。</p> <p>(2) 野球場、サッカー場の草刈りについて、夏場は特に草が生い茂り、子供たちがスポーツを存分にできない状況の時もある。これまでも草刈りを定期的に行っているが、年間を通しての計画について伺う。</p> <p>(3) 天竜川緑地グラウンドのトイレは野球場、サッカー場合わせて7か所設置されているが、全て和式である。依然として洋式トイレへの変更を求める声を多く聞くが、洋式への変更の予定について伺う。</p>	<p>中村花みどり 担当部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(4) 施設予約システム「まつぼっくり」の改修について、これまでもキャッシュレス決済の導入や、キャンセルなど利便性向上の要望を伝えてきた。利用者にとって分かりやすいシステムが必要だと考えるが、検討状況を伺う。</p>	<p>水谷デジタル・スマートシティ推進部長</p>
<p>5 バイクのふるさとにふさわしいバイクでの地域活性化について</p>	<p>ものづくりのまちとして繊維、楽器、自動車・オートバイなどの産業によって発展してきた本市において、バイクのふるさと浜松は、特に二輪車の国内三大メーカーが集積した全国的に見ても貴重な都市である。バイクで地域を活性化させていくことができる唯一の都市と言え、本市でしかできない取組が必要と考える。バイクを活かした地域活性化について、以下伺う。</p> <p>(1) 遠州灘海浜公園篠原地区道の駅整備事業について、令和6年度に基本計画の策定に着手することになっているが、本市だからこそ、バイクユーザー目線の施設構想を取り入れていくことが付加価値を生むと考える。バイクユーザーにやさしい駐輪場や、イベントができるスペースなどを取り入れた道の駅ができれば、自然環境に恵まれた本市を周遊するバイクユーザーの一大拠点となるポテンシャルを有している。地域の活性化にもつながると考えるが、いかがか伺う。</p> <p>(2) 「バイクのふるさと浜松」は、一昨年からオートレース場での開催とし、コース試乗や模擬走行など年々パワーアップしている。オートレース場での開催2年目となり、前回の反省であった導線の改善や出店舗の集約化など、工夫が見られ大いに盛り上がったと感じている。イベントとしての総括と次回以降、更に魅力を高めていく取組について伺う。</p> <p>(3) 本市はこれまでもバイクのふるさととして、ライダーに有益な情報を、ホームページやSNSでライダーに提供し、呼び込みを行ってきた。バイクでの地域活性化、関係人口の拡大に向けて、更なる施策が必要と考えるが、本市の考えを伺う。</p>	<p>石坂企画調整部長</p> <p>北嶋産業部長</p> <p>//</p>